

2020年3月期（第202期）第1四半期決算について

2019年7月29日

大阪ガス株式会社

1. 経営成績（2019年4月1日～2019年6月30日）

(1) 決算の概要

当第1四半期の売上高は、ガス事業で原料費調整制度に基づき販売単価が高めに推移したことなどにより、前年同期に比べて増収となりました。経常利益は、ガス事業での原料価格の変動が販売単価に反映されるまでのタイムラグによる増益影響(*)などにより、増益となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、増益となりました。

(*)原料価格の変動が原料費調整制度に基づく販売単価に反映されるまでには一定の時間差があるため、一時的な増減益要因となります。当第1四半期は増益要因、前年同期は減益要因となっております。

[単位：億円]

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益 (注)
連 結	3,350 (+ 12.8%) [2,971]	366 (+ 76.8%) [207]	414 (+ 77.4%) [233]	286 (+ 83.1%) [156]
個 別	2,707 (+ 12.5%) [2,407]	286 (+198.4%) [96]	377 (+113.8%) [176]	291 (+115.0%) [135]

(注) 個別財務諸表では「四半期純利益」 []内は前年同期実績、()内は対前年同期増減率

(2) セグメント別概況

「国内エネルギー・ガス」のセグメント利益は、原料価格の変動が販売単価に反映されるまでのタイムラグによる影響などにより、増益となりました。「国内エネルギー・電力」のセグメント利益は、料金値下げなどによる販売単価の低下や営業経費の増加などにより、減益となりました。「海外エネルギー」のセグメント利益は、フリーポートプロジェクト関連費用の影響やゴンププロジェクトのLNG販売量の減少などにより、減益となりました。「ライフ&ビジネス ソリューション」のセグメント利益は、材料ソリューション事業の販売増などにより、増益となりました。

[単位：億円]

	売上高	セグメント損益 (注)
国内エネルギー・ガス	2,514 (+ 14.1%) [2,204]	309 (+171.9%) [113]
国内エネルギー・電力	420 (+ 13.1%) [371]	11 (△ 46.9%) [21]
海外エネルギー	111 (△ 2.0%) [113]	9 (△ 79.5%) [48]
ライフ&ビジネス ソリューション	490 (+ 5.0%) [467]	35 (+ 14.5%) [31]

(注) セグメント損益：営業損益+持分法投資損益 []内は前年同期実績、()内は対前年同期増減率

(3) 個別ガス販売実績

大阪ガス個別のガス販売実績[45MJ/m³] は前年同期を下回りました。家庭用のガス販売量は、他社へのスイッチング影響などがありましたが、気水温が低く推移し給湯・暖房需要が増加したことなどにより、前年並みとなりました。業務用等のガス販売量は、他社へのスイッチング影響やお客さま先での設備稼働減などにより、前年同期を下回りました。

ガス販売量（百万・）	1,799（△ 4.1%）
家庭用	459（△ 0.8%）
業務用等	1,340（△ 5.2%）
ガス供給件数（千件）	5,430（△ 7.1%）

（ ）内は対前年同期増減率

(4) 国内電力販売実績

国内の電力販売量は、小売での販売量の増加により、前年同期を上回りました。

電力販売量（百万kWh）	2,783（＋ 6.5%）
小 売	869（＋ 44.6%）
卸 等	1,914（△ 4.9%）
低圧電気供給件数（千件）	1,077（＋ 53.3%）

（ ）内は対前年同期増減率

2. 当期（2020年3月期）の業績予想

2019年4月24日に公表した業績予想から修正はありません。

[単位：億円]

	連 結	個 別
売上高	14,260（＋ 3.9%）	11,380（＋ 3.0%）
営業利益	910（＋33.9%）	530（＋89.6%）
経常利益	810（＋28.4%）	565（＋39.3%）
親会社株主に帰属する 当期純利益（注）	550（＋63.7%）	430（＋71.0%）

（注）個別財務諸表では「当期純利益」（ ）内は対前期増減率

（参考）原油価格・為替レート的前提（2019年4月1日～2020年3月31日）

原油価格（全日本C I F 価格）：65 ドル/バレル・為替レート（T T M）：110 円/ドル

以 上